

コミンテルン謀略説を追う

中西 そうです。しかし、最近、真相に迫るとされる文書が出てきた。それが『GRU帝国』というソビエトの情報工作機関の物語を書いた実録、歴史書ですね。これは『マオ』が引用して、多くの人を知るようになりましたが、ソ連が支配する東支鉄道の利権を脅かす張作霖を暗殺し、より操り易い息子の張学良を使って関東軍との間に対立を起させるように、とのモスクワの指示に従って、ソ連のGRUという軍の情報部が当時、ハルピンに作っていた謀略組織と上海の組織との協力で、日本軍の仕業と見せかけるシナリオを書き、二つの工作を併行させてやっていたということを明らかにしているわけですね。

二つの工作というのは、一つは関東軍がやった、と皆に思わせる洗脳工作です。張作霖を爆殺することによって「満州を押しえられるんだ」という考え方を関東軍に吹き込む工作も併行してやっていた可能性もある。もう一つはソ連工作員による実際の爆破工作です。それを指揮したのはナウム・エイティンゴンという切れ者のソ連工作員。この人は後にトロツキーをメキシコまで追いかけて行って暗殺した下手人ですけれども、そのエイティンゴンの指令を受けた部下が実は張作霖と同じ列車に乗っていた。

京奉線と満鉄線の交差点の皇姑屯（こうことん）という所で爆破は起こっていますが、線路に爆弾を仕掛けておいて高速で走る列車のある特定の客車だけを爆破するというのは非常に難しいわけです。また、あの壊れた列車の残骸の写真を専門家が分析すると、屋根の上の方が爆破されている。線路に爆弾が仕掛けてあれば、下の車輪部分も全壊しているはずだと。

そこで上を通る満鉄線の橋梁下に爆薬が仕掛けられた、と後で言われるのですが、エイティンゴンは、橋梁や線路の爆破ぐらいでは致命傷は与えられないから、自分たちが爆破に直接関係したと言って、客車の写真を撮って、それを自分の功績、証拠として、その壊れた客車の写真を自分の回顧録にわざわざ載せて、そして自分がやったんだとはっきり言っているんですね。



クリスマスバージョンの有楽町 Marionette

それからこれは昨年の四月に明らかになったことですが、『蔣介石日記』というのが今、順次、アメリカのスタンフォード大学で公開されていますけれども、その日記の昭和二年（一九二七）、つまり爆殺の一年前の項に、「張学良（張作霖の息子）が国民党員になった」という一節があるのです。蔣介石はその日記にはそれ以上何も書かなくて、非常に謎めいた記述なんですけど間違いなくそう書いてあるんですね。

当時、張作霖は、蔣介石と北伐を巡ってお互いに生死を懸けた争いをしているわけですね。そこへその息子の張学良が敵方の蔣介石の指導する国民党に秘密入党していたという。これは重大な事実なんですね。昨年の四月十九日付の産経新聞も報じましたが、今、この事実を歴史家が全く考えあぐねておりました、誰に聞いても、「いや何なんだろう。記述は間違いなさそうだ」と。張学良は父親の張作霖爆殺事件の一年前から蔣介石側と通じていた。

その蔣介石はモスクワと連絡があった。表向き上海クーデター、つまりその前年の四月に起こった四・一二共産党弾圧クーデターで蔣介石とソ連との関係が切れたと歴史では言われているんですけども、蔣介石の息子の蔣経国がずっと

モスクワに留学しているわけですから、それだけでもルートは確実にあったわけです。

現段階では「両論ある」、でも「謀略説」が優勢

ですから張学良、[蒋介石](#)、そしてコミンテルンという三つのパイプは明らかにあったといえる。としたら張作霖爆殺の背景と動機、要素としては、両方全部揃うわけですね。そして実行者の具体的な告白としてエイティンゴンの証言がある。そうすると客観的に見て、河本大作がやったと言う側の資料よりもこちらの資料の方が明らかに強いわけです。

したがって河本はじめ関東軍が単独でやったという解釈は、少なくとも白紙から再検討しなければならない。あとほんの少し事実が出て来たら完全にはっきりすると思います。百歩譲って申し上げても、現段階では関東軍の仕業と決めつけるわけにはゆかずに「諸説ある」、というべきでしょう。

小堀 河本大作が共産軍に抑留されて、あれは自分がやった事だと言ったことは間接的な伝聞としては広く流布してしまっておりますけれども、それ以前、つまり張作霖爆殺事件が、日本国内で満州某重大事件として取りざたされていた時には、河本は自分がやったというようなことは言ってなかったのでしょうか。

中西 昭和十年代に河本が満州、或いは支那本土で民間の仕事をしていたときに、彼がいつも自慢げにそう言っていたという伝聞は、戦後日本で出た色々な関係者の「証言」として出てくることは出てくるんですね。ですけれども、それがどういう状況で、どういう話として言ったのかは確定できませんので、一応今のところは「両説ある」と言わざるを得ない。

小堀 さきほど、エイティンゴンが、あれは俺がやったことと、一種、功を誇るような調子で言ったとおっしゃいましたけれども、河本も同様だったのではないかと。つまり、あれは関東軍の仕業でしかも河本が指揮してやったんだろうというような話が周りに伝わっていて、その時に、「うん、あれは俺がやったんだ」と河本が言ったとすればそれは彼の功名心がそう言わせたのではないかなと思うのですけれどもね。

中西 エイティンゴン自身の「私がやった」というきわめて明白な証言と「河本がやったと言っていた」という話を聞いた、というのを同列に扱っていいか、という問題があるでしょう。そもそも当時の、コミンテルンやロシアの諜報工作の伝統から言うと、誰か皆が信じやすい人がやったという、一つのパーセプションを作り出すために、「本当にあいつがやった」と思わせる洗脳技術、特殊工作が非常に重視されておりました。

一例を挙げますと、一九三三年、[ドイツ](#)国会放火事件というのがあります。

あれは、ナチスが自ら放火したのに共産党の仕業として、それを口実に共産党などを弾圧した事件とされています。当時ナチス党の指導者さえその様に思ったんですね。ところが近年の研究によると、どうも[ドイツ](#)駐在のコミンテルン組織がそのノウハウ、その具体的な戦術に至るまで、ナチスの陣営に知らせていた。

つまりナチスとコミンテルンは地下パイプがありましたので、あれはどっちがやったのかははっきりとしない。場合によると、一種の暗黙の「合作」だった、という有力な説がある(スティーブン・コッチ『[ダブル・ライヴズ](#)』)。今はとりあえず、現場で捕まった精神薄弱の一人の青年の仕業だという解釈しか未だにありませんが、たった一人であんな大きな議事堂を一瞬にして炎に包むなんてことはとうてい出来ません。

これと似たようなことが、張作霖爆殺でも[GRU](#)独特の手法として取られたのではないかと。彼等は一九一九年、コミンテルン発足直後からこの戦術をずっと重視し、洗練させてきておきますので。ですから、そういう洗脳工作によって河本大作は本当に「自分でやった」と信じていたのかも知れません。

いずれにせよ、今後、旧ソ連の極秘文書などの新資料、あるいは当時満州で関東軍やソ連の動きをずっと監視していた[イギリス](#)情報部の史料公開などに注目しておくことが大切でしょうね。(完)

カテゴリ: [コラむ](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(0\)](#)

タグ: [満州事変](#) [蒋介石](#) [関東軍](#) [河本大作](#) [コミンテルン](#) [張作霖](#) [張学良](#)